

2025 年 9 月 11 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヘ リ オ ス
代表者名 代表執行役社長 CEO 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証グロース)

第 87 回日本血液学会学術集会での新規細胞外マトリクスタンパク質を用いた iPS 細胞の分化誘導プロトコールに関する研究成果発表のお知らせ

2025 年 10 月 10 日から 12 日まで神戸国際会議場他で開催される第 87 回日本血液学会学術集会 (<https://www.jshem.or.jp/87/guide.html>) において、当社が研究開発を進めている iPS 細胞を造血前駆細胞 (HPC) へ分化させるための培養プロトコールの開発・最適化に関する研究成果について発表しますのでお知らせいたします。本発表では、大阪大学蛋白質研究所の関口清俊教授が開発された新規細胞外マトリクスタンパク質^(注)を用いて実施した共同研究の成果を報告いたします。詳細につきましては下記をご確認ください。

注：細胞外マトリックスは、細胞の外周に形成される線維状あるいは網目状の構造体の総称です。その組成は多様で、非常に多くのタンパク質が含まれており、細胞の増殖、分化、形質発現の制御において重要な役割を果たしています。本研究では、タンパク質工学の技術を用いて新たに創出した細胞外マトリクスタンパク質の効果を検証しています。

記

日 時：10 月 12 日（日）13:10～13:45

会 場：ポスター会場 1（神戸国際展示場 1 号館 2F 展示室 A）

発表形式：ポスター展示

プログラム番号：P3-1-6

セッション名：造血微小環境と分化（ポスター発表）

演題名：ヒト iPSC の HPC 分化を促進する新規基質へパラン硫酸結合型ラミニンフラグメント

発表者：山田雅司¹、二宮直登¹、佐々木薫¹、香取良祐¹、清水泰博²、藤田和将²、
谿口征雅²、國枝泰子²、田村康一¹、関口清俊²、木村博信¹

発表者所属：1 株式会社ヘリオス神戸研究所 創薬研究部／生産部

2 大阪大学・蛋白質研究所

以 上

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の患者さんにとって新たな治療法として期待されています。この分野では、製品開発・実用化への取り組みが広がり、将来的には大きな市場となることが見込まれています。ヘリオスは、iPS 細胞（人工多能性幹細胞）などを用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011 年に設立、2015 年に株式上場（東証グロー

ス:4593) し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。体性幹細胞再生医薬品分野では、健康な成人ドナー骨髄由来の体性幹細胞から成る独自の細胞製品である HLCM051 を使用した脳梗塞急性期や急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) 及び外傷の治験を実施しています。HLCM051 は、強力な抗炎症作用と免疫調節作用を示すことが示されており、さまざまな病態への応用が可能です。後期臨床試験において数百人の患者さんで試験され、3D 培養法で一貫して製造されており、複数の適応症において数百人の患者さんで安全性と有効性の両方が実証されています。ヘリオスは、脳梗塞急性期、ARDS、外傷に対し、HLCM051 をグローバルに推進してまいります。iPSC 再生医薬品分野では、免疫拒絶のリスクを低減する次世代 iPS 細胞であるユニバーサルドナーセル (UDC: Universal Donor Cell) を作製し、さらには、遺伝子編集技術により固形がんに対する殺傷能力を強化した次世代 NK 細胞 (eNK®細胞) の開発を進めています。eNK®細胞は、動物モデルにおいて強固な抗腫瘍効果を実証しており、大量生産が可能な 3D バイオリアクターでの製造プロセスを実現しています。これらにより、がん免疫領域をはじめ、眼科領域、肝臓領域などで新規治療薬の開発に取り組んでいます。

<https://www.healios.co.jp>

本件に関するお問合せ先
IR 広報部 ir@healios.jp